特集 800号記念特集

順天堂医学. 2005, 51
P. 486~489

『順天堂医学』の体裁・構成・出版社について

木 所 昭 夫*

AKIO KIDOKORO

700号記念特集は昭和55年12月に発行された26巻4号で行われている。

以降、25年経過して、51巻4号で『順天堂医学』は通刊800号を数えることになった。

701号から800号までに至る100冊の表表紙について、『体裁』『構成』がどのように変化したか、また、出版社が学術社からキタ・メディアに変わった事でどのように変化したかを見てゆきたい。

I. 表表紙の体裁の変化について

表表紙の体裁について、一見ではあまり変化がないように見えるが、細かく見ると、100冊が発行される間に、かなり変化していることがわかった。

1. 701号から719号までの変化について

27巻1号（701号）では『1981年3月』の位置が、700号と異なり、太線から離れていたが、28巻3号（707号）では700号と同じ位置に戻っていた。

その後、28巻4号（708号）では701号と同じ位置に戻るが、30巻4号（716号）では700号と同じ位置に変化していた。この形は31巻3号（719号）まで続いている。

昭和54年からの議事録を検討したが、この体裁の変化がなぜ起きたのかについての記載がなく、理由については不明である。

2. 720号から721号までの変化

31巻4号（720号）では、目次が端から端までに拡大し、文字の大きさは8ポイントと大きく

なった。32巻1号（721号）では、さらに目次の文字の大きさが10ポイントと大きくなり、字体も変わった。字体についてキタメディアに確認したところ、20年前、31巻が発行された当時は、コンピューターによる編集作業ではなく写植の時代であったため、現在で言う明朝体と呼ばれるものと思われるとのことであった。

ただ、このポイントは現在のPC（マック・ウィンドウズ）でのポイントであり、写植時代の級数とは、若干、異なると思われる。

33巻4号まで、数字も巻、号ともに10ポイントのまま推移している。

3. 729号からの変化

月の印刷が無くなったこと、年号の下段に和年号が追加されたこと、○巻○号の文字が20ポイント、巻と号が16ポイントと大きくなったこと、年巻号の下に位置する線が細くなったこと、があげられる。この変化について、議事録には記載がなく、変化の詳細は不明である。

4. 誤植について

39巻2号は、本来、通刊750号であるべきところ、749号と印刷されており、次号の39巻3号までも、本来、通刊751号であるべきところ、通刊747号と印刷されていた。39巻4号は正確に通刊752号となっていた。その後、1年間に開催された議事録に、誤植について検討されたとの記載はなかった。

5. 775号からの変化

表表紙の目次から頁数、ガイドライン、投稿規程、編集後記が消え、中目次が登場した。

平成11年9月30日開催の第367回編集委員会

*順天堂医学編集委員

順天堂大学医学部附属順天堂浦安病院外科教授

〔Aug. 22, 2005 原稿受領〕

議事録に、『45巻2号(774号)の表紙に都民公開講座の演者全員の名前と演題名が記載されておらず、演者に対して失礼だという意見が出て、次号から、本文に入る前に1頁の目次を入れる事になり、その目次に、詳しい内容を入れることになった』との記載があった。同年10月28日に開催された368回編集委員会議事録には『表表紙に大まかな目次のみを載せ、次の1頁目に詳細な目次を入れることになった』との記載があった。この後、発行された45巻3号(775号)からは、編集委員会の決定通り、表表紙の目次には大まかな内容が記載され、中目次には、頁数が入り、表表紙には記載できない詳しい演題名と演者名、ガイドライン、投稿規程、編集後記が掲載されていた。表表紙から細かな頁数が消え、すっきりとした印象になった。

6. 表紙の紙質について

46巻3号(779号)表紙の色調が『特厚ネズミ』から『両面クロムカラーのネズミ(クロムの質感)』に替わったが、46巻4号(780号)で元の紙質『特厚ネズミ』に戻っている。この事情については平成12年9月14日開催された第376回編集委員会と平成13年3月1日に開催された第380回編集委員会の議事録に記載があった。編集委員会宛、湯浅晋治会員から、①表紙の色が全体的に色あせた感じで、少し、暗い感じがすること、②表紙の紙質と色、活字の色が同系統でContrastが不明瞭であること、③目次の活字が小さすぎ表紙の色とあわせて明瞭ではないとの指摘があり、この対策として①表紙の質を一般雑誌のように艶のある良質の紙にすること、②表紙の色を白か明るい色にすること、③目次の活字を大きくするか、濃くすることで、表紙の装丁を一新して明るくattractiveにして欲しいとの提言があった。

第377回編集委員会で2種類の見本紙が(株)キタメディアから提供され、検討された結果、最終的に378回編集委員会で『両面クロムカラーのネズミ』紙の採用が了承され、2001年2月発行の46巻3号(779号)では『特厚ネズミ』から『両面クロムカラーのネズミ』紙に替わった。

第380回編集委員会では、46巻3号の表紙についての再検討が行われ、『両面クロムカラーのネズミ』紙では、紙質的に汚れが目立ちやすいとの意見が多数でたため、次号から以前と同じ『特厚ネズミ』紙に戻った。

表紙の紙質の検討は、その後も継続して行われ、47巻1号から4号まで、それぞれ異なった紙質のものが試験的に使われている。

最終的に48巻1号(785号)から『特厚ネズミ』にマットPP(つや消しフィルム)処理を施したもの』に替わっており、印象としては柔らかく明るく、編集委員の先生方の間でも好評で、現在まで、継続している。

II. 構成の変化

1. 概ね、『順天堂医学』は特集—原著—症例報告—報告—総説—研究会抄録—医学プロムナード—順天堂医学会総会資料・記録—てがみ—教室業績—投稿規程—総目次索引—沿線別会員紹介—編集後記から構成されている。

2. 前付け：弔辞、訃報、集会案内について

訃報の掲載は平成8年6月発行の42巻2号(762号)が最後であった。

平成9年3月発行の43巻1号(765号)の巻頭言を最後に前付けは掲載されていない。

3. 特集について

各巻2号には退職教授記念講演が特集として組まれている。

平成5年4月発行の39巻1号(749号)から特集として同窓会主催の医学会の講演内容が掲載され、平成14年3月から【診療研究の最前線】、平成17年3月発行の51巻1号(797号)から【医学研究のUP-TO-DATE】という形に変化している。

平成10年9月発行の44巻2号(771号)から特集【都民公開講座】の掲載が開始された。平成10年12月発行の44巻4号(772号)から特集【医師会産業医研修会】の掲載が開始された。

4. 総説

平成13年2月発行の46巻3号(779号)から、各巻3号は総説論文特集となっている。総説論文

特集号には、前項3の特集の掲載はない。

5. 報告

昭和55年12月発行の26巻4号（700号）ではすでに掲載されており、ほとんど毎号で掲載されている。43巻3号（767号）から成田医学教育ワークショップと医学教育ミニワークショップの報告が掲載されている。

6. 医学ブロムナードについて

昭和55年12月発行の26巻4号（700号）で既に掲載中であり、毎号全てに掲載されていた。

7. 医学会総会資料・記録

昭和55年12月発行の26巻4号（700号）で既に、掲載されており、その後も43巻4号（764号）まで毎年4号に掲載されている。表表紙の目次への記載はないが、中の目次に記載されている。

8. てがみ

通常、特集の内容に対する会員読者からの質問に答える形で、構成されている。708、720、736、738、770、777、779、780、781、783、785、786、787には掲載されていなかった。

9. 教室業績

昭和55年12月26巻4号（700号）では既に掲載継続中であったが、平成4年12月38巻4号（748号）をもって、掲載が終了した。この中、711号には、教室業績は掲載されていない。教室業績の掲載について、昭和55年6月開催の175回、同年12月開催の180回編集委員会で検討されたという記載があった。175回編集委員会議事録に、教室業績の掲載にはかなりの紙面が必要であり、原稿が遅れる事が多く、整理や校正にも大変な時間と労力が必要で、教室業績の『順天堂医学』への掲載は中止するか、別冊とする方針としたい旨、書かれていた。180回編集委員会議事録には、教室業績記載要領を作成し、是を守らないものは掲載しない旨、教授会で徹底を図る。別冊は作成せず、毎号に掲載するという内容が書かれていた。昭和60年9月開催の232回編集委員会議事録には教室業績の頁数が多く、問題となっていたようで、削減のために学会発表は割愛する方針で行くと書かれてあり、同年11月に開催の234

回編集委員会で学会発表とその他が昭和60年分より割愛が決定されたとの記載があった。

10. 学位論文一覧

平成9年3月発行43巻1号（765号）から年1回まとめて掲載され、現在は殆ど毎年2号に掲載されている。

11. 一般教育論文

平成11年3月発行の45巻1号（776号）から掲載が開始された。内容については、別項を参照して頂きたい。

12. 投稿規程

平成59年12月発行の30巻4号（716号）から掲載が開始され、平成11年6月発行の45巻2号（774号）から中目次に移動した。

13. 投稿ガイドライン

平成6年12月発行の40巻4号（756号）から掲載が開始され、757号から761号まで投稿規程の後に掲載された。762号から以降は投稿規程の前に掲載された。

775号から表目次には掲載されず、中目次に掲載されている。

14. 総目次索引

昭和57年12月発行の28巻4号（708号）から掲載が開始され、1年間1回ずつ、各巻4号に掲載されている。28巻から44巻まで投稿ガイドラインの前に掲載され、平成11年12月発行の45巻4号通巻776号で表目次から消え、中目次に移行した。

15. 沿線別会員紹介図

昭和57年12月発行の28巻4号（708号）～平成3年3月発行の37巻1号（741号）まで、26回に渡って掲載された。平成3年4月に開催された第283回編集委員会記事録に、「会員紹介図は741号の埼玉県をもって、全国を一巡したので、最終回とした」との記載があり、「今後の企画については継続検討する」と記載されていた。

Ⅲ. 出版会社の変遷

30年間に渡り、学術社により印刷業務が行われていた。平成8年12月19日に開催された第341

回編集委員会で印刷業者の変更についての検討が開始され、協議の結果、学術社を含めて、4社から、見積もりをとり、比較検討されることになったという記載が議事録にみられ、平成9年1月30日第342回編集委員会、平成9年2月27日第343回編集委員会をへて、43巻1号の一般教育特集号から(株)キタ・メディアに印刷会社を変更することが決定された。

しかし、編集の都合で、43巻1号の一般教育特集号より、43巻2号(766号)の方が早い発行となったため、実際は43巻2号から(株)キタ・メディアでの印刷が始まったと考えてよいと思われる。

文字について、学術社とキタ・メディアでは若干異なる印象があるが、写植とPCによる変化かもしれない。

おわりに

主に表表紙の体裁について、700号から800号までどのような変遷があったか、について検討させて頂いた。

初めにも書いたが、一見して、何も変化がないように思われたものが、1枚、1枚比較することにより、実に沢山の変化があることに気が付いた。編集委員の先生方が、知恵を絞って、『順天堂医学』をより良い方向にレベルアップしようとされているご努力の様子を垣間見ることが出来た。

『順天堂医学』もいよいよ800号の発行を迎えた。

このような素晴らしい歴史をもった『順天堂医学』に感動し、記念すべき『順天堂医学』800号の編集に携わることが出来たことを感謝している。

今後900号に向かって『順天堂医学』がどのような発展を見せてゆくか楽しみである。